

はじめに

いま、私たちは、これまで確かなものとされてきた世界観や価値観が揺れ動く、不透明な世界にいる。

この変動する時代の大きく重いうねりのなかで、世界は手軽に読み解けると謳^{うた}っていた「定石集」や「用語集」は、世界の豊かさやこわさを見くびっていた分、しっぺ返しされ、次々と無効宣告を受けている。

そして、時代と戯れる「テクニク集」や「マニュアル集」を消費したあとの空しさのなかで、私たちは、自分の力で世界そのものと、もう一度じっくり向き合っていくほかに、未来をつかむことなどできないのではないかと、気付き始めた。

自分の頭で考え、行動することはエネルギーの要ることだが、そのエネルギーをかけ、自分自身と、そして世界と格闘し、そのなかで自分にとっての大切な「問い」と「答え」を求め続けよう。

私たちが、人間や世界に対する興味や好奇心を持って、先人たちが積み重ねてきた知的営みの上に立つ「現代文」と格闘することもまた、新しい自分と世界を発見していく、未来につながる営みであると思うのだ。

時代は確かに混沌のなかにあるが、しかしそのただなからこそ、新しい社会や新しい生き方を展望する言葉たちが立ち上がってくることを、私たちはかすかに予感しているはずだから。

さあ、「現代文と格闘する」ことから始めよう。

本書の構成について

本書は三部構成となっている。

実際の取り組み方については、各部の扉に詳しく説明しているので、ここでは、三部構成のあらましを説明しておくにとどめる。

第一部「ことばをイメージする」では、現代文を読解するためのキーワード群を精選し、それらのイメージアップを図った。「ことば」の意味や用い方をただたくさん暗記するのではなく、いくつかの重要な「ことば」に焦点を当て、その「ことば」のつながりや周辺のテーマをも見通しながら、生きた理解ができるように試みた。

第二部「文章を読みつなぐ」では、現代文を読解するための方法「読みつなぐ」ということについて説明する。「方法」と書いたが、「定石」や「テクニク」と呼ばれるような煩雑で、いかめしい「やり方」を強制しようというのではない。むしろ、文章を全体としてつかもうとする思考の流れに沿った「読みつなぎ方」を、君自身が自在に編み上げていけるように、いくつかのシンプルな「視点」を提案しようというものだ。

第三部「文章と格闘する」の「演習編」では、いよいよ君に鉛筆やシャープペンシルを持って実際に、入試類出のテーマを追った問題と取り組んでもらうことになる。「解説編」では、問題ごとに一つのガイドラインとしての「読みつなぎ方」を示すことで、君が自分の「読みつなぎ方」と照らし合わせて、

読解上の問題点を自分でたやすく発見できるようにしている（自分の課題を知ることが飛躍への秘訣だ！）。ただ「答え」を合わせて終わるのではなく、論述や選択肢の「答え」を導く根拠ともなる「読み」を確かなものにしてほしい。また、設問の解法が具体的にわかるように、要所要所に設問タイプ別に「解法のヒント」を置いた。

言うまでもないが、「現代文」の力を伸ばしていくカギは、人間と世界に対する、君の知的な好奇心にかかっていると言える。そのため、入試現代文で取り上げられるテーマ（これは「小論文」にも「英文解釈」にも頻出するものだ）について、さらに広く深く考えていく手がかりを提供し、君の知的な関心を喚起するために、「知の扉」を第二部・第三部に置いた。

「三訂版の刊行にあたって」

本書の初版は一九九五年に、改訂版は二〇〇六年に刊行された。その間、数多くの受験生、また現場の先生がたが本書を熱く支持してくださった。心より感謝申し上げる。改訂版に寄せられたご意見・ご要望に応え、このたび三訂版を刊行する。三訂版では、入試現代文の傾向を考慮し問題文の大幅な差し替えを行うとともに、今後、現代文学習の目標として思考力・表現力の養成にいつそう焦点が当てられることをかんがみ、論述問題を増やし、問題文の読解プロセス、論述答案の導き方について説明を強化した。また、すべての問題に「全文要約」の答案例と考え方を示し、要約練習と取り組みやすい工夫を加えた。なお、三訂版の作成にあたって、河合塾講師、中田勝也氏、畑中小百合氏のご協力を得た。記して謝意を表したい。

著者

目次

はじめに	1
本書の構成について	2
第一部 ことばをイメージする	7
I 「字義」上の関連語	
II 論理を示す重要語	
III 近代をめぐる諸概念	
IV 対概念	
V ダイナミズム(動的な見方)	
第二部 文章を読みつなぐ	27
第1章 〈キーセンテンス〉と〈論理〉で読みつなぐ(評論文の読解)	29
第1節 評論文を読むということ	29
第2節 評論文をどう読めばよいか	30
第3節 実際に問題文と取り組む——〔例題1〕中村雄二郎「哲学の現在」	36
第4節 全体をつかむことに向かつて読みつなぐ	41
第5節 問題をどう解けばよいか	55
第2章 〈出来事〉と〈心情・想念〉で読みつなぐ(小説文の読解)	62
第1節 小説文を読むということ	62
第2節 小説文をどう読めばよいか	63
第3節 実際に問題文と取り組む——〔例題2〕清岡卓行「アカシヤの大連」	66

第4節 場面における、「出来事」と「心情・想念」を読みつなぐ 72

第5節 問題をどう解けばよいか 93

第三部 文章と格闘する「演習編」……………別冊

第三部 文章と格闘する「解説編」……………103

【問題1】 今福 龍太 「移り住む魂たち」(評論)……………109

【問題2】 鷺田 清一 「わかりやすいはわかりにくい？」(評論)……………130

【問題3】 阿部 謹也 「世間」とは何か(評論)……………147

【問題4】 李 禹煥 「余白の芸術」(評論)……………171

【問題5】 高井 有一 「少年たちの戦場」(小説)……………191

【問題6】 夏目 漱石 「それから」(小説)……………212

【問題7】 上田三四二 「廃墟について」(小説)……………228

【問題8】 高橋 和巳 「事実と創作」(評論)……………245

【問題9】 日野 啓三 「東京の謎」(評論)……………260

【問題10】 丸山圭三郎 「言葉と無意識」(評論)……………272

【問題11】 柄谷 行人 「ネーションと美学」(評論)……………289

【問題12】 西部 邁 「社会科学の落日」(評論)……………308

【問題13】 イ・ヨンスク 「国語」という思想(評論)……………322